

編集後記

▼一昨年四月に石川教張元所長、昨年四月に中濃教篤元所長が相次いで遷化され、今春、その失ったものの大きさを、自衛隊イラク「出兵」報道の中で感じております。前号所報で石川師を偲び、今号所報で中濃師をお悔やみする稿を組む寂しさを、お察しください。

▼四年前に今成元昭師が、折伏正意の建前と教団の実態が違う、と撰受正意を主張された問題提起から始まった撰折問題を、昨年三月の教団論研究セミナーと九月の中央教研で取りあげました。今成師の所論に対し、十一月の中部教研基調講演で庵谷行亨立正大学教授が二十一项目にわたって反論されました。情報過多で分かりにくい問題ですが、これを各教師の判断材料として提供し、この問題についての取り組みを一応終了させていただきま

す。河村孝照師の教化学大会特別発表も、撰折問題に言及されています。

▼本年度から、調査研究内容を中央教研と連動させ、宗務総長施政方針にも対応していく工夫に取り組みます。もちろん、現宗研設立の基本である①教学の現代的把握(教化学)②新宗教対策③立正安国世界平和実現の三本柱に取り組みながら、です。現宗研研究員顧問嘱託が分担した調査研究内容を、中間報告を含めて掲載しました。

▼研究員が研究例会で発表した内容を、録音再録で掲載しました。

▼創価学会の急激な会勢拡大期、いわゆる「折伏大行

進」の理論武装書『折伏教典』を知らない人たちに、資料を提供します。

▼教化の法則を現場の教師が研究する教化研究会議と、その実動部門である教化センターについて再認識願いたく、当初から関わった現宗研の『研究時報』を資料として転載しました。

▼中央教研報告は、録音再録を原則としましたが、基調講演については、伊藤瑞叡師から大幅な加筆が入りました。

▼牟田口義隆師の自記は、住職法務と同時に医師としての活動に従事する中で、必要に迫られてケア介護施設を経営している報告です。

▼活用の便を考え、別冊として、昨年十一月開催の教化学研究発表大会報告『教化学論集4』・『日蓮宗年次年表(平成十四年分)』のほか、『日蓮宗全女性教師アンケート報告書』・現宗研教化シリーズ合本再版『創価学会の徹底的解剖・内部矛盾』を全教師に配布いたしました。あわせてご活用ください。

▼寄贈図書等は、活用させていただきます。購入図書等も含めた貸出・閲覧などのサービスに対応しますので、ご一報ください。

▼現宗研ホームページアドレス <http://www.genshu.gr.jp>
現宗研Eメール genshu@sepia.ocn.ne.jp を利用ください。

▼日蓮宗の宗是である「立正」を問題提起する二十一世紀の教団として、社会にももの申す姿勢こそが、本化別頭

の存在意義と心得、調査研究をもとに現代教化を提言してまいります。ご支援ください。今号所報は、五百頁余の過去最高頁数となりました。

(主任伊藤立教記)